

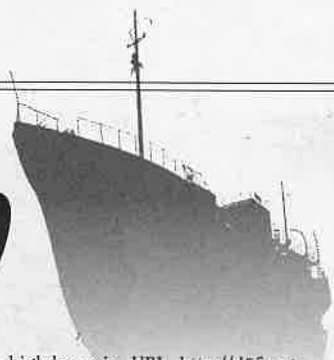
都立 第五福竜丸展示館ニュース

2004.09.01
No.312

福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



高知市で開かれた第五福竜丸の特別展示会（自由民権記念館にて）八月六日



ビキニ水爆被災五〇周年記念 特別展 手紙―託された心

久保山愛吉さんと家族に寄せられた手紙より

九月二三日～十月一七日

第五福竜丸無線長・久保山愛吉さんの命日、五〇年目の九月二三日がめぐってきます。展示館では、今年もさまざまな催しがとりくまれます。

久保山忌の句会は、二〇年余の歴史をもち今年も全国から募ったビキニ事件をテーマにした俳句作品を展示館に展示します。「第一二回平和を語る第五福竜丸の集い」をはじめ、マグロ塚を作る会による懇談会、久保山碑への献花や市民団体、平和団体による見学会や学習会がおこなわれます。

平和協会では、この日から五〇周年の記念事業として特別展「手紙―託された心 久保山愛吉さんと家族に寄せられた手紙より」を開催します。この展示は、第五福竜丸平和協会が所蔵する三〇〇〇通の手紙から約百通を特別展示するものです。全国から寄せられた手紙につづられた人々

の心情からは、理不尽な被災に対する怒りと乗組員の病状への心配、水爆実験への憤りをくみ取ることができま

す。また、終戦から九年目の庶民の暮らしぶりや戦争で身内を亡くした境遇の人びとからの温かい励ましもあります。手紙には、小学生・中学生からのものが多数あり、事件の与えた影響の広がりうかがえます。

これら手紙の大半は、一九七三年九月二三日に焼津市で開かれた久保山愛吉氏追悼会において、久保山すずさんから寄贈されたものです。

被災 50 周年記念事業協賛

2004 年焼津ビキニデー
俳句作品展

—全国から寄せられた 60 句展示—

主催=久保山忌句会

日時=9月23日～10月17日

ところ=第五福竜丸展示館

久保山忌に寄せて ヒロシマ・ナガサキ・ ビキニの叫び、今こそ

吉田一人

今年第五福竜丸のビキニ水爆被災事件から半世紀。九月二三日は久保山愛吉さんの没後五〇年になります。

事件の衝撃と、「死の灰」による久保山さんの死が与えた国民の悲しみと怒りは、今もお鮮明に覚えています。

川崎昭一郎氏（財団法人第五福竜丸平和協会会長）の近刊『第五福竜丸―ビキニ事件を現代に問う』（岩波ブックレット）の中に久保山さんの



8月6日のラジオ番組のインタビューに
応える入院中の久保山愛吉さん

死の翌日、五四年九月二四日の朝日新聞の記事が紹介されています。――（一人の庶民の死がこんなにも多数の眼に見守られたことがあつたらうか。それは、罪なき一命を無残にも奪い去ったあの「死の灰」に対する激しい怒りと抗議の眼である）
まさにその通りでした。久保山さんが最後に残したのは「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」とい

う言葉です。だが、私たちは今、久保山さんの遺言を生かし通しているだろうか。そう考えると、緊迫感を覚えずにはおられません。

*

思い起こしてみると、一九五四年という年は緊迫感に満ちた年でした。戦後混乱期から戦後第二期への節目だったといえるでしょう。

この年は年初から保全経済会事件、造船疑獄、陸運疑獄など戦後政治の腐敗を露呈する事件が続発。国民の政治不信から体制を守るために翌年の保守合同―自民党結成（五五年体制）へと進みます。

アイゼンハワー米大統領は年頭教書で「沖縄基地の無期限保持」を表明、ダレス米國務長官は大量報復政策（ニューロック政策）を発表。ソ連との核軍拡競争でマーシャル諸島での水爆実験を強化、これがビキニ事件を引き起こします。

朝鮮戦争の中で占領軍総司令部の指示によって登場した警察予備隊は五四年に「自衛隊」に変貌、衣の下のヨロイをあらわにし始めます。発足

から五〇年間、憲法のおかげで戦争をしないできた自衛隊が今、憲法を突き破って「突撃」しようとしている姿に背筋の寒さを覚えます。

*

ビキニ事件への怒りは原水爆禁止署名運動として東京・杉並区に広がりました。その杉並区には今、原爆被爆者が約四百人います。区の被爆者の会（杉並光友会）で昨年、被爆者の実態調査をしました（回答率58%）。調査の結果には、原爆によって今なお健康と心をむしばまれ、子や孫たちへの放射線の影響を案じている被爆者の姿が浮かび出てきました。

調査の中に「将来核が使われる不安を感じているか」という設問がありました。回答は「感じていない」が92%にのぼったのです。被爆者である私自身が驚きました。米国の核先制使用政策をとっていることや小型核兵器の開発に熱中していることなど、危険な状況についての情報を、回答者たちが詳しく把握しているとはいえないでしょう。しかし、被爆者はその体験から、

今の危険な空気を直感しているのです。

カナリアは炭鉱の中で発生するガスをいち早く探知して自分のからだで知らせる、といひます。今、被爆者自身が「核戦争のカナリア」として警報を発しているのです。

*

久保山さんの遺言「原水爆の被害者はわたしを最後にして」と、ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴え続ける「ふたたび被爆者をつくるな」の叫びは五〇年、六〇年をへて、二一世紀に生きのびた私たちに、新たな重みを加えていると思ひます。

「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意」（前文）して生まれた日本国憲法は「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によつて、これを保持しなければならぬ」（二二条）と明言しています。憲法が求めている「国民の不断の努力」が、今こそモノをいうときだと思ひます。
（よしだ かずとニジャーナリスト、被爆者）

日本人とマグロ

ビキニ事件そして久保山さん 死去五〇年目にあたって

河井 智 康

てていたという。

ところが近年は、日本の商社がそれを買ってくれるので冷蔵庫に置いてあるという。行ってみると立派な上半身がトロ・大トロ付きで転がっていた。もちろん冷凍ではなく生である。捨てる予定のものを買うのであるから、商社はかなり安く手に入れるのであろう。それが築地にすれば超一級品として扱われるのだ。そんなこともあり、いま日本人が食べているマグロの半分は輸入ものである。

有力なたん白源

日本人のマグロ好きは世界的に有名である。とりわけマグロのトロ・大トロには目がない。それはサシミで食べる習慣のためだろう。外国ではマグロは食べてもステーキ風だったり缶詰だったりして、赤身の方が主体である。

もう数年前になるが、フランスのマルセーユの魚市場で地中海マグロ（ホンマグロの一級品である）を売っているのを見たことがある。ところが売りに出されているのは下半身だけだ。おヘソの辺り（魚にヘソはないが）でまっ二つにし、尾の側しか売れないので、今までは上半身は捨

て進出したのである。

第五福竜丸事件は、その矢先の出来事だった。とりわけマグロ漁業は動物性たん白質の生産頭であった。それを食べられないことが、当時の日本人食生活へ及ぼす影響の度は、今日の比ではなかった。まさに市場も業界もそして台所もパニック状態になったのは当然だった。いわば国策としてのマグロ漁業振興が重大な障害に直面したのであり、国は、その責任上も対応を迫られたのである。

久保山さんの死と原水爆

反対

しかし、その相手が二年前に結んだ日米安保条約で同盟を交わした「親分」のアメリカであり、また核実験という戦後政治最大の重要戦略に直接関わるものだったことが、この事件を想像以上に複雑で解決困難なものにしてしまったと言えよう。

アメリカは何とか秘密にしようとし、また影響を小さく見せようとした。日本政府もアメリカの方針に従い、あ

らゆる姑息な手段を用いてきた。しかしヒロシマ・ナガサキの経験を持つ日本国民の反応も素早く鋭いものだった。

第五福竜丸という証拠の隠滅を許さず、乗組員の治療やマグロの汚染調査結果を公開させ、ついには原水爆禁止世界大会を実現させたのである。

第五福竜丸無線長の久保山愛吉さんが死の直前に残した「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」の遺言は、人びとの心を強く打ち、その後の運動の大きなはげましになった。アメリカ政府、日本政府にとってこうした運動の高まりは、まさに世紀の大誤算であったに違いない。

マグロと核兵器廃絶

米ソの対決時代が終わった時、世界中で核兵器は「無用の長物」との声が高まった。しかし、アメリカは世界覇権のチャンスととらえ、その主要な道具として核兵器を使おうとしている。だが「驕れる者も久しからず」の言葉のよう

に、いま世界中に平和を求める大きな流れができて始めて

いる。ヨーロッパでもアジアでも、アメリカ・中南米でも、アメリカの一国覇権主義に抗した運動が着実に広がっている。その中で一人、アメリカの傘の下に今まで以上に入ろうとしているのが日本政府ではなからうか。

日本人はマグロのサシミが好きである。私はよく外国人に言う。サシミのことを英語で「RAW FISH」というが、RAWをさかさまにすればWAR（戦争）になる。そこでもう一度WARのさかさまを考えればPEACE（平和）となる。だからサシミの好きな日本人は平和が好きなので……。

皆さん、マグロのサシミを食べる時は核兵器廃絶を考え、世界の平和を語りましょう。「核兵器も戦争もない世界」の実現のために。（かわいいともやず、海洋サイエンティスト）



第五福竜丸展高知市で開催

高知市による企画展「ビキニ水爆50年～第五福竜丸の核被害を知ろう」(展示・制作/第五福竜丸平和協会)が8月6日から15日、高知市立自由民権記念館にて開催されました。

この企画展は「高知市平和の日」記念行事として開かれたもので、地元マスコミも大きく取り上げ、のべ2000人が見学しました。

会場にはパネル約120点をはじめ、「死の灰」やガイガーカウンター、漁具類などの現物資料、島田興生さん撮影のマーシャルの核被害者の写真パネル、元乗組員やマーシャルの人々の証言などが展示されました。

夏休み中のため小学生・中学生の見学者も多く、高知新聞が資料を連載で紹介したこともあり、事件当時、マグロ漁船に乗っていた元船員やその家族、漁船の放射能検査をした人なども来場し、さまざまな証言をしました。

展示初日には平和協会の安田事務局長が招かれ、記念講演を行いました。また、1985年からビキニ事件調査を続けている幡多高校生セミナーの関係者によるシンポジウムも行われました。



武政博さん ビキニ事件の童話「船ゆうれいのぶんじい」を上梓

ビキニ事件をテーマにした詩を書き続けている、詩人の武政博さん

(高知県中土佐町在住)の童話『船ゆうれいのぶんじいーわしは水爆実験の火の玉を見た』がこのほど出版されました。土佐清水市に廃棄されていた被ばく船をテーマにしたものです。A5版99ページ1000円(税込み)青い地球社発行(問合せ0887-52-4845)。第五福竜丸展示館売店でも扱っています。

埼玉の青年によるエンジンの薬品塗布



8月15日、埼玉の青年10人が来館し、第五福竜丸のエンジンへのさび止めの薬品塗布がおこなわれました。「平和のための埼玉の戦争展」で第五福竜丸・ビキニ事件コーナーなどを受け持ったボランティアメンバーが中心で、作業は一昨年からつづけて三度目です。

現代アート展 見学者ノートより

アート展「コラプシング・ヒストリーズ」は8月15日に終了しました。4週間の会期中約1万3000人が訪れ、用意された感想ノートにメッセージを寄せました。その一部を紹介します。

*

「世界共通語ともいえる“アート”を通して忘れてはならない記憶を鮮明に思い出させ、新たな切り口を教えてくれる活動を心から支援します」
「初めてここに来ました。このアート展がなかったらおそらく来なかった

と思う、アート展がきっかけをつくってくれました」

「アートとか音楽が手をつなげば、今の若い人も、こんなヘンピな場所でも興味を持って訪れると思う」

「この展覧会を知らなかったら、私は一生第五福竜丸や水爆実験の事を知らないでいたと思います」

夏休みに「はかるくん」で放射線の勉強会

夏休み期間中は、学校からだされた課題(宿題)のために友達と連れ立って来館する中学生や高校生が、連日見受けられます。ビキニ事件や第五福竜丸の被災についてレポートや見学の感想文を書くという生徒たちには、平和協会が準備した「夏休み自由研究のメモ」を配布し喜ばれました。

今年は、特別展開催のため一般募集の夏休み教室はおこないませんでしたが、学童保育クラブと生協の親子平和ツアーからの要望で、「はかるくん」(簡易放射線測定器)を使った放射線の学習教室をおこないました。

埼玉・所沢市の小手指学童クラブの小学4～6年生22名は、8月24日に来館し、福竜丸についての説明と見学、「はかるくん」を使って船体や死の灰、線源の石などを測りました。



--(^o^)-- ボランティアメールト

アジアボランティアセンターのスタディツアーに参加してマーシャルに行ったOさん、歴史教育者の大会で山形に行ったNさん、広島・長崎から高知まで「遠征」したMさん、少人数で連日ガイドにあたったみなさん。忙しくも充実した夏!ごくろうさまでした。